

舟入探究日誌 第17号 (1月11日)

皆さんこんにちは！探究委員会1年生のMです！

突然ですが、みなさんはミルクティーを作ったことがありますか？ミルクティーは紅茶とミルクを混ぜて作ります。その紅茶とミルク、どちらを先に淹れても同じ味になると思いますよね、

ですが、ある貴婦人が「私はどちらを先に淹れたミルクティーか、味で判断することができます」と言いました。それを聞いた人がある実験を行いました。実験内容は至極簡単。2種類のミルクティーを用意して、その貴婦人が飲み、当ててもらおうというもの。

さて、ここで実験の内容に関して疑問を感じませんでしたか？例えば、「ミルクティーはいくつ用意するの？」「貴婦人がいくつ正解したら『判断できた』と言えるの？」などなど…

そこで登場するのが統計学です。統計学とは、調査して集めたデータを数値に表し、性質を調べたり、未知のデータを推測したりする学問のことです。しかし、統計学に100%はありません。また、データが揃っていても、適切な分析を行わなければ、意味のある結果を導き出すことはできません。

もしあなたがこの実験を試みるなら、どのような条件、状況で、結果を導き出せるでしょうか？

それではまた次回の探究日誌で！た～んQ！！